

・認知症への知識や理解を深める取り組みの推進について

・ディスレクシアへの適切なサポート体制について



公明党
むしゃ ようこ
武者 葉子



詳しい内容は
こちら

65歳以上の人口がピークを迎える2040年には、認知症高齢者が約584万人、軽度認知症高齢者が、約612万人に上ることが推計されている中で、誰もが認知症になり得るという認識のもと、共生社会の実現を加速させることが重要です。

認知症の人を、単に支える対象として捉えるのではなく、一人の尊厳のある人として、その個性と能力を十分発揮しながら、共に支え合って生きる共生社会の実現を目指し、本年1月に認知症基本法が施行されました。

特に地方公共団体は、認知症の人やその家族等にとって身近な行政機関であるとともに、認知症施策を具

体的に実施する重要な役割を担っています。本市の取り組みを伺いました。

発達性読み書き障害であるディスレクシアは、学習障害の一つのタイプで、全体的な発達には遅れがないのに文字の読み書きに限定した困難があり、そのことによって学業不振が現れたり、二次的な学校不適応などが生じる疾患です。適切なサポート体制を伺いました。

・えるぼし、くるみんの普及啓発について

・デマンドタクシーについて・補聴器の補助事業について

少子化を食い止めるために何を優先すべきかといった観点で、企業が女性の働き方を変えていくために「えるぼし*」、「くるみん*」という女性が活躍できる職場を整えることを厚労省が認定する事業などについて聞きました。女性が男性と対等に働けて、結婚しても昇進や子育てしても差別されずに、管理職としてキャリアを積むことが保障される。こうした職場環境を整えていくことが日本のジェンダーギャップを解消していくことであり、加えて少子化にも歯止めをかけることができる道ではないでしょうか。

10～11月に旧松井田町で実証実

験が行われた「AIデマンドタクシー事業」は2か月だけでなく、継続するように、結果と今後の取り組みについて聞きました。

加齢に伴う難聴者のための「補聴器」の購入補助について聞きました。難聴で会話に困難を抱えると、社会的交流が減少して引きこもりが増え、認知症高齢者が増加するとされています。県内ではすでに12市町村で補助事業があります。



くるみんマーク



日本共産党安中市議団

かない ひさお
金井 久男



詳しい内容は
こちら

※えるぼし…女性の活躍促進に関する取組が優良である等の一定の要件を満たした事業主を厚労大臣が認定するもの。

※くるみん…次世代育成支援対策推進法に基づく認定制度で一定の基準を満たした企業が申請を行うことで子育てサポート企業として厚労大臣が認定するもの。